

24/3/1 名古屋市議会経済水道委員会

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 上村みちよ(自民・東区)：ただいまから経済水道委員会を開会いたします。

本日は、観光文化交流関係の付議議案に対する総括質疑を行います。

なお、なお、名古屋城木造天守閣昇降技術開発に関し、田中市長特別秘書にご出席いただいております。

資料の要求はございませんでしたので、田中市長特別秘書に対する質疑を含め、付議議案に対する総括質疑をお許しいたします。

浅井正仁(自民・中川区)：田中特別秘書さん今日はお呼び出してありがとうございます。

早速でございますんで、ちょっといろいろ聞かさせていただきたいと思っておりますけども。

田中秘書さんは、今回のこの人権問題に関係して、エレベーターの昇降機ね国際コンペをやった。

そん中において今回のこの国際コンペ、MHI この間局長も最上階を目指すと言った。

まず、特別秘書の考えを教えてください。

田中市長特別秘書：今回の開発国際コンペで採択された MHI の技術に関する開発に対する考えというところで、数年私も秘書という特性上ですね、個別な考えを持ってやるというところではないというところではあるとは思っているんですが。

一般論としてですね、考えるところとしましては国際コンペ最低要求水準として1、2階までの技術で加点水準として5階、極力上の階までフロアまで目指していくというところで応募されたものだというふうに認識しておりますので、それに対して答えられた今回 MHI さんとして出されたものが、より上のものを目指していくというものではございますので、そこに関してはそういう開発をしていくものなのかなというふうに考えておるところではございます。

浅井正仁(自民・中川区)：そしたらですね、前回の総務環境か、突如尺取虫っていうのが出てきたんですね。前回の委員会で名古屋城の方にお聞きしたら、誰も知らないと、だけど総務環境で市長が言われたのは役所の仲間と会った、じゃ誰だという話になって、田中特別秘書だっていう、現実に市長とその業者と3人で会われたのか。教えてください。

田中市長特別秘書：今委員からですね、確認があったその業者と、尺取虫と市長が言われた業者とですね、3人だったのかというところでございますが、実際提案のご説明を受けたという段階では名古屋市の会議室ですね、その業者さんと業者さんが1人だったのが2人だと私もちょっと正確には覚えてないんですけども、それとも名古屋市当局側として

は市長と私の2名だったのかなというふうに思ってであったというふうに認識しております。

浅井正仁(自民・中川区)：では、それはいつ会われたのか。  
時系列的に、市長が付加設備の方針をね、行ってからいつその業者と会われたのか。  
もちろん今日ここに来てるから、そういうのを調べてますよね。  
ちょっと時系列にお願いします。

田中市長特別秘書：時系列でございますが、すみません付加設備の方針自身が平成30年5月、もうすぐ私の就任前んとこあるんですけども、30年5月というふうにしております。  
まあね、その事業者さんに関しましてはその段階から接触があったというふうには聞いております実際その尺取虫というふうに市長が言われたご提案そのものはですね、平成30年6月に受けたものだというふうに認識しております。

浅井正仁(自民・中川区)：そうすると公表してから1ヶ月後にその尺取虫の会社と会われた。  
ちょっと確認なんだけど、この2018年の6月27日に行われた名古屋城のバリアフリー技術、これでね、こないだ言ったクモだとか、パワースーツだとかいろいろ入っとんだけど、そもそもこの中にその尺取虫は入ってるのか。僕が思うにこのクモがひよっとしたら尺取虫なのか、これ一番最初、最後にこのこれが1近いのかなと思ってみたり和歌山大学の車椅子型ロボットひよっとしたらこれが尺取虫なのかと思うんだけど、こん中に尺取虫は入ってんですか。

田中市長特別秘書：今委員のですね参考参照されてる資料の中にも尺取虫と言われてるような市長がおっしゃられたような技術というのは入っておりません。

浅井正仁(自民・中川区)：ちょっと入ってないってことなんですね。いよいよ公募があったと。  
その尺取虫を市長さんは、この間の総務環境の中でもギクシャクして動くって言ってんだよね。  
京都の会社あとは言えんと。でもギクシャクして動くってことは、それらしいものを見たのか。  
そういう映像か何かを見たのか。どうなんですかどこまでのこと。

田中市長特別秘書：委員からですね、そういう市長の言われたような技術をどのレベルまでその提案で受けたかというふうにというところでございますが、私が同席しております

たので、見た限りですとパワーポイントみたいな1枚の提案資料にですね、そういうイメージ図みたいなものが、技術のこういうようなイメージです数枚にわたってですね、書かれてるような、そういうものでどうかとかですね実際のそういう一步踏み込んだ技術を作られた状態とかそういうものでは特になかったというふうに認識しております。

浅井正仁(自民・中川区)：そのときには絵だね。絵だけを見たと、ギクシャク動く様子も何にもないと。

それどこまで聞いていいかわかんないんだけど、市長はシークレットって言ってましたよね。

それは、尺取虫って動くわね。そのこのどんな絵かが想像もわかんないんだけど、こういう機械があって、それを階段を上っていくの。

田中市長特別秘書：まず前段としてですね申し訳ございません市長がシークレットと言われた前段の部分をご説明した方がいいかなというふうに思ったのでそこをちょっと御説明させていただきますとですね、この事業者さんから元々国際コンペがもう構想が出た後でしたので、普通は国際コンペに出していただくというのが大前提になっている話だったんですけども、国際コンペ等だとアイデアベースの技術、技術的な基本業者使用されるアイデアベースで始まっていくとアイデアベースの場合はですね国際コンペ等で事前に要は開発コンペ等があるとですね、そういう段階で情報漏えいのリスクとかがあってですね、その事業者さんとしてあまり望まないという中で、いわゆる随意契約的な、そういうものしかうちの事業者は受けないんですというような話が実際にまずありました。そういう中でこれは市長が既存事業者さんからそういう話を聞かれてですね、それから私の方にそういう点を踏まえた上でアポイント調整してくれた形で動いたんですけども、ですのでちょっと具体的な技術っていうのをですねそんなんでクローズの中でやったという話が前段としてございます。その上で技術を見させていただいたので、なかなか技術内容を申し述べるのができないというところも大変申し訳ないところではあるんですけども、階段を使ってどういうふうに上手に車椅子等が上っていくのかというようなですね、そういうな技術提案であったことは事実でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：その提案を聞いて、市長さんと田中さんはこれはすごいと、これはいけると感じたの。

田中市長特別秘書：どう感じたというところではありますが、私達ももちろん技術の専門家ではないもんですからどこまで実現可能なものかってのはなかなかわかりかねるところは正直ございまして、これができれば確かにすごいなと思ったのは確かに事実としてはございますけども、本当に実現できるものかどうかとか、あとは実際にそういう、障害者団体の方も含めてご納得いただけるものかどうかとかそこら辺は判断できかねるところがあっ

たもんですから。随契ってなると基本唯一無二ですので、そこにはやっぱりなかなか難し  
いだろうという中でやはり国際コンペに出していただきたいというところで、私としては  
市長も含めてお願いしたところ、お願いで返したところ、でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：随契でお願い、随契は駄目だとね、あくまでも国際コンペで出  
してくれとお願いしたのが、さっき言ったその6月の話。

田中市長特別秘書：はい6月に提案を受けて、その場でもそういうふうに申し上げて、と  
はいえ一応現場の担当の方々にはこういう中身は言わずにですねというような提案があっ  
た、もちろんそこは共有いたしますので中でもやっぱり随契は厳しいよねというのがあり  
ますので、改めてその後連絡等で返したというふうに記憶しております。その1週間ぐ  
らいの、その間でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：それから4年たって、公募がいよいよ始まったわけですね。  
その4年間は何にも音沙汰なしだったのか、それとも随時打ち合わせみたいのをしたた  
の。

田中市長特別秘書：その後の国際コンペの4年間のことでございますけども、私の一応記  
憶してる限りでございますと、そのあと数ヶ月3ヶ月4ヶ月間ぐらいはこういう形で、例  
えば障害者団体の方とは合意取れそうだとかですねそういう何かの方からいろんなお話は  
いただいたものですね。

と言えねとしてやっぱりちゃんとその国際コンペの場でやっていただきたいという話を  
連続して差し上げてたところそのぐらいで大体事業者さんからのお話も提案も、こちらで  
は来なくなってですね。

なので大体平成30年の10月11月ぐらいで大体やり取りは終わったのかなというふうに認  
識しております。平成30年6月に提案を受けておりまして、その4ヶ月後10月ぐら  
いはそういう連絡のやり取りも具体的には終わったのかなというふうに思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：平成30年の10月にやりとり終わって、そっからは何もないと  
いうことだと思っただけですけどそれでいいよね。

田中市長特別秘書：はい委員のご認識の通りでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：だけどせんだっての総務環境でいくと、出してもらえと思っ  
とったみたいな発言があったんだけど、うんそうだしってもらって4年前の話を市長は  
言って出してもらえと思ったの。

あなたから出してくださいとかそういう話はなかったの。

田中市長特別秘書：ですねそこに関しましてちょっと市長のご認識っていうところでちょっと私もわかりかねるところがあるんですけども、一般論としましては、国際コンペという形で市として正式にやってるわけですので、そこを通して公募をかけていくことで、私がその一事業者さんとかに声をかけるというところは差し控えてたところではございます。

浅井正仁(自民・中川区)：そうすると、田中特別秘書も知らんってことはね。何の連絡もなかったってことだね。それを前回の総務環境では、あたかも尺取虫の話が出てきて、ね。

前回の総務環境で、尺取虫、何回尺取虫って市長が言ったか知ってます。それ知らんでしょう。

7回ですよ。リニアは13回、MHIは何回出てきたのか0回ですよ。なんかものすごい違和感感じるんだよね。今度リニアのことをちょっと聞かせてもらえばね。

リニアは、それも市長とあなたとリニアの、その万博に出す会社うんこれは多分ネットで見るとすぐ出てくる会社だと思う。その会社名を言ってもいいのかな。

田中市長特別秘書：そこに会社名に関しましては基本的にまだご提案を正式に受ける前の会社さんのヒアリング段階だと思いますので、そこは私の判断として出さない方がいいのではないかなというふうには思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：仮にリニアと言わさしてもらうんだけど、それは、突如、公募が終わった後に、本会議にリニア会社の話を市長はされたんだよね。

自分で電話したとか言っとったと思うんだけど、公募が終わってからの話なのか、その事前にそのリニアの会社からあったのか。どっちですか。

田中市長特別秘書：リニアの会社に関しましては私が直接やり取りの間に入ったわけではないもんですから

浅井正仁(自民・中川区)：さっきの質問でリニアは田中さんと市長、これも2人だけですか。

そっから行こうか。

田中市長特別秘書：そういう意味でいくと私と2人ではございません。

浅井正仁(自民・中川区)：そこには名古屋城は入ったんだね。

田中特別秘書：そういう市長を交えたねいわゆる説明の場とかそういうところ、事業者さんの説明の場等には名古屋城の職員さんも同席されてるといふふうに認識しております。

浅井正仁(自民・中川区)：ちょっと名古屋城の方に聞くけどね、そのリニアの会社とあったのは、向こうから提案したいと言ったのか、市長さんが探してきて会いたいと言ったのか、まずどっち。

昇降技術開発等担当推小鹿主幹：そのリニアの会社と市長と話しする場に名古屋城同席しておりました。同席の経緯といたしましては、市長の方からですね同席するよというふうな指示がありまして同席したものでございまして、市長とリニアの会社とどのようなやり取りでどのような経緯でそういった会談の場が設けられることになったのかということについては承知しておりません。

浅井正仁(自民・中川区)：それあったのは公募の前、後、

小鹿主幹：期日でございますが、時系列的に申しますと、公募優勝し、最優秀者の選定これは令和4年12月5日でございます、その後ですねリニアの事業者さんと会ったのは。令和4年12月23日となっております。もう一度さらにですねもう一度面会しております、こちらが令和5年の8月23日でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：そうすると公募でMHIと決まってから会ったんだよね。

分野だった。それはこれ、この国際コンペでさ、ね。

もっとモップから入ると4億使うんでしょあなたたち。何コソコソやってんだよ。普通止めなきゃね。4億だよ。

とりあえずとかこないだ市長言っとったけど、とりあえずあなたたち4億使うのか。

国際コンペからやって、電話して、よっぽどそのMHIのやつが嫌なのか市長は、そのリニアの会社。

ホームページ見ると、多分同じとこだと思うんだけど、あれもカゴだ。

エレベーターと変わらんで、市長はあの本会議のときに、階段を登るって言った。

俺は空飛ぶ絨毯みたいなので想像したんだけど、どうも違うように感じるんだけど、城に聞いた方がいいのかな。そのときにね、階段のぼれる。

市長はとりあえず階段登るっていう指示したに決まってると思うんだけどね。

エレベーターが嫌なから。

市長からは、あるいは田中さんからどういう話があったのが、その業者とどうい話をしたのか、教えてください。

小鹿主幹：まず市長はあの階段を直接昇降できるようなものこれをイメージしておったというふうに認識しております。令和4年の12月23日、このときの面会の内容といたしましては、その市長さんがですね直接階段を昇降できるイメージを持っておられたものですから、リニア技術がどのようなものであるかというような説明があった。あった場でありました。

リニアの技術にはですね磁力を発生させるため、誘導板が必要ですよとか、まずは垂直に昇降を確保できるそのようなものを目指しているとそんなようなお話でございました。

8月23日につきましては特段何か具体的にその階段部を直接昇降できるようなものについて具体的な何か進展があったそのような話があったわけではなく、事業者さんと現状について市長さんの方に情報提供というか、事業者さんからのPRみたいな形でのお話があったというふうに認識しております。

浅井正仁(自民・中川区)：そのリニアの会社とね、その提案だけ受けて、それでもう終わったの。

それとも二、三年後にできるって市長は言っとんだけど、そういう返答をもらったの。

小鹿主幹：リニアの事業者さんからは、市長がですね3年から5年というふうにおっしゃっているわけなんですけれども、近年ですねそのリニアの技術を近年商品化に向けて開発を進めているといったようなお話の中で市長さん3年から5年でできるというふうに今捉えて発言されているのかと思います。リニアの事業者さんからは、12月23日においての会談の後にですね、市長が階段を直接昇降するような技術を望んでいたものですから、それに対しまして後日の26日になります同事業者さんから、私ども名古屋城の方に今の段階で天守への導入は難しいというように市長の方に伝えたいがよろしいかという相談のお話があり、名古屋城としてそれを了承いたしましたして、その翌日27日になりますが市長さんの方にそのように伝えたというふうな電話を名古屋城の方にいただいております。

浅井正仁(自民・中川区)：ようするにリニアの会社からはお断りの電話があっただよな。

小鹿主幹：実質的にお断りの電話が連絡があったというふうに認識しております

浅井正仁(自民・中川区)：断られたにも関わらず、総務環境で13回も喋る話か。

独りよがりじゃん市長、田中秘書も入るそこには、ちょっと尺取虫は要は随意契約じゃないから出さないいうことで断られたんだよね。

田中市長特別秘書：コンペに出されなかったというところで断られたということではないかなというふうに思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：何とも言えない話ばっかだよなこれね。

これ、特別秘書さんこれいつの総務環境委員会かな、3月12日か、令和3年そんなときにね、市長特別秘書の考える自らの成果についてっていうので、田中さんは名古屋城木造天守閣整備事業において文化庁専門家教育委員会所管局など関係者間のヒアリングを行い、市長の状況判断に寄与したって書いてあるんだけど、この技術開発で、何をあなたは寄与したの。何を調整したの。

田中市長特別秘書：今委員からの御指摘でございますけれども、いろんなとこのご意見を聞きながらですね。団体さんも含めてですね聞きながら、そのときそのときで私なりの考え方を市長に私なりというか、そのときそのとき言い、様々な関係者の方々ですね考え方で一緒にお伝えさせていただくということには務めさせていただいたかなというふうに思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：私なりの考えを述べてみて、

田中市長特別秘書：私なりますと、そこはちょっと私が今言い直したところであるんですけども、あえて私の考えというのがあるとした場合には、やはり随契の話とかもそうですけども、やはりいろんな方の合意というかですね、そういうものを踏まえながらやってくるのがバリアフリーの事業だというふうに思っておりますので、そういうところをどういうふうにするか大事にしていくのかというところは、よく申し上げたかなというふうに思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：田中さんは今のこの現状を見てね、リニアはもう断られた。尺取虫も出してもらえなかったってことは、断られたということやな。現実的にね。市長は総務環境でも最有力とか何か言ってんだよね。それわかってるよね。この二つが最有力だと思う。

田中市長特別秘書：申し訳ございません。市長がまずそこどういような思いで言われたかという私もなかなかはかりかねるところであるんですけども、現状においてはこの2社の技術というのは実現性とか現実性っていうのは想定することはできない段階なのかなというふうに思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：田中さん特別秘書だから市長から任命されてんだよね。今回のこの昇降機に関わる人権問題はね、名古屋城は最上階まで目指すね。市長さんは目指さん、できるなら付けたね、そこでいろんな葛藤があったってそれは認識してるよね。あなたは特別に選ばれた市長秘書だから、そういったことは市長に言えない立場なのか。

おかしいと、これ誰が聞いてもおかしいと思うよ、こんなやり方、コソコソコソコソと。名古屋城を抜きで、技術開発の会社に来てみたり、別に名古屋城を入れたっていいんじゃないの。

名古屋城の人が喋るはずもないし何をコソコソコソコソやっとなのって話だ。そういったことをあなたは、言えないの言う立場にないの。かつて調整役とか何か言ってなかった。でもそれでも市長は聞いてくれなかったのか。どっちなの。

田中市長特別秘書：私もですね委員から厳しいご指摘をいただいたと思っております。私自身もちろんそのときそのときですね、私見としてですね、今委員がおっしゃられたようなことも含めてですね市長に提案させていただくときはありますけれども、最後はもちろん市長のご判断というところがですね、もしくは以前のコンペの前にあっただすね事業者さんでいうと事業者さんからのご要望というのものもあるもんですからそういうところはどうしても最後は優先せざるを得ないところはあるのかなというふうには思っております。

浅井正仁(自民・中川区)：特別秘書もいろいろ言ったんだね。言ったけど聞いてもらえなかったってことだよ。未だにこんな尺取虫だとかリニアとかでてくんでしょ。あんまり聞くこともないもんで、要はね、局長。今の話聞いて、多分あなたたちも尺取虫の話は初めてだと思うんだよね。

これ尺取虫も駄目リニアも駄目。で今回補正が出されとる中において、こないだ前の総務環境で言ったら、否決かなと思ってましたよ。最高の一番な、なんつったかな。正確には言わんといいかなそこは、お願いだったかな。ちょっとちょっと出てこんね、どっかにこれ書いてあったよね、確か。

一番いいみたいな。ちょっといいや。それでね、現実を考えたときにね、局長。

もうこれMHIしか僕ないと思うんだけど、局長はずっとMHIとも契約もしたと。

市長は、未だにリニア尺取虫がいいと言いとる。3年から5年で完成する、MHIも3年から5年で、完成する。これもなかなか判断するのは難しいと思うんだけど、局長今日の尺取虫の話聞いてね。

どう思ったのか、局長の今の答弁で、考えさせていただきたいと思いますんで。よろしくお願いします。

佐治局長：本日この委員会で市長が申し上げております二つの新技術について縷々質疑が交わされたというふうに認識しております。一つ目の尺取虫と言ってる技術でございますけど、局としては承知をしていないところでございます。

本日の田中特別秘書の説明聞いていてもMHIの垂直昇降設備この開発を上回るスピードその実現の可能性、これについては現時点で判断できる材料はございませんし、そもそも公募に応募がなかったというところでございます。

もう一つのリニアを取りれる技術につきましては当局の職員の説明を聞いておりますが、令和4年の12月の終わりにですね、先方の方から私どもの方に対してお断りのなかったと、現時点での天守閣への導入は難しいという返事がありました。従いまして局としましては、公募に応募して所定の手続きを経て選定された契約を締結しております最優秀提案技術提案者でありますMHIこの垂直昇降設備が最高の技術という認識でおりますので、引き続きここでの開発を着実に進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：今局長の言ったのに田中さんはどう思いますか。

田中市長特別秘書：私の意見というか、市長も含めてだとは思いますが、基本的にはMHIってのはもちろん採用された技術でございまして、それをまずは今局長からも最終現状である一番現実的な技術だという話もあった通りで、まずこれがどこまでいけるのかというのをしっかりやっていくところに力をかけていくことが大事なところじゃないかなというふうに私自身は思っているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：なんかさってそういうとき、別に名古屋城に導入してもいいかなって話になってくんだよね。これ名古屋城の事業でやってんでしょ。オールオアナッシングじゃないんだよ。

他に使うためにやるんだったら、健福なり、経済がやればいい話であって、名古屋城の事業でやってるんでしょ。

木造につけるためにやってるんでしょ。市長に言っというてほしいのは、混乱させなくて。

後出しじゃんけんみたいなのやめてくれと。これも後出しじゃんけんじゃん。

公募終わってから電話して一番いい方法、でも断られる。それを堂々と委員会の中で言う。

雲をつかむような話をそれも人権問題があった後に。これを聞いてこのとき障害者の方も見えとったよね。

ね、そのクモみたいなやつに何て言ったか覚えとる。あんたたちいないか。こんなに乗れんだろう。乗れんって言われたんだよ。

見世物じゃないっていう、尺取虫とどう違うんだ。それが混乱を招く原因でしょう。

もしね、特別秘書もそれにしっかりと名古屋城に特化っていう前の特別秘書も言っとうた。

やっていただきたい。とりあえずこれでとりあえず終わっておきます。

さわだ晃一(公明・西区)：市長特別秘書さんにお越しいただいてるので、私の方からもちょっとお聞きしたいんですけど。

今現時点で市長さんは、MHI との契約を当然良しとしてるから議案として繰越明許として我々に提案をしてきているというふうに認識をしております。

今の話を聞くと公募を締め切った後に業者の提案でね、いろんな話を聞くのは別にいいと思うんだけど、本来であればさっき浅井委員がやり取りした通りで、今回のこのMHIの技術っていうのは、基本的には名古屋城専用昇降装置っていうことだから、一般的に広く使えるものを開発しているわけではないっていうふうにね、今あった通りなんですよ。だからまだ納得してないんじゃないの市長ってこのMHIと契約したことに本音ではどういうふうに田中特別秘書、市長さんから見えてますか。

田中市長特別秘書：委員からの御指摘でございますけれども、もうまさしくこれご提案し議会でさらしていただいているものでございますので、基本はもう納得した上でやってらっしゃるものだというふうに私は思っているところでありましてけれども、多分、市長の中で見る場所が若干違うのかなというのは、MHI はもちろんこれ名古屋城のために特化して開発していくものでございますし、かなり先というかですね、そういうところにまた次の技術というので考えてらっしゃるんじゃないかなと私自身は思っているところでありましてけれども、ちょっと最後ちょっと市長のお考えを私自身で、確定的に申し上げることは難しいなというふうに思っております。申し訳ございません。

さわだ晃一(公明・西区)：市長の話は幾重にも混同混乱が混ざってるので、総務環境私もあの全部拝聴しましたが、全く議論がかみ合っていないということは強く印象を持ちました。

その上でこれ田中特別秘書さんの今、市長を見ての思いですけど、市長は最上階までエレベーターをつけるっていうことに対して極めて懐疑的な発言を先日の総務環境委員会で発言をされておられます。

今の現段階ではできないんじゃないか、できないんじゃないかとまでは言ってないけどね、言ってないんだけど、非常に懐疑的なやり取りをされております。

ただ局の方針、観光文化交流局の方針としては最上階を目指していくということは、もう平成30年の段階で確定をしている。

現段階で市長は、この昇降装置エレベーターというところね正確性に欠けるので、あなたから見ると市長さんから見られて、最上階まで目指すのは不可能と本音では思っている。もっと言うと付けんでもいいんじゃないかと思ってるというふうに、私には見えるんですけど、秘書さんから見てどのように見えますか。

田中市長特別秘書：開発最上階まで市長はどのように考えていらっしゃるのかというところではございますけどそこも最後ちょっと市長のお考えのところですねあれですけども、もちろんこれ技術として5階までいけるというところと、またそれが最後意匠とかですもんもろもろと、そういう安全とかですね、との最後トータルの兼ね合いになってくるっ

ていうところ多分、多分市長を混同されてるのかなというところは、先生の御指摘の委員の御指摘からも察すると思うところではございますので、あれですけれども、まずやっぱり技術としてどこまでいけるのかということ、もう探っていくかといけないという意識は市長でもあるのではないかなというふうには思っているところではございます。

さわだ晃一(公明・西区)：私もね誤解しちゃいけないと思うのは、市長は別に障害者の方を上まで上がってもらってもいいとは思ってないしね、上がってもらえばいいんだということはやっぱりこの前の委員会でもおっしゃってて。ただエレベーターとか昇降装置じゃない他の技術で上がれるのであれば、それはより史実に忠実なんだというように私は感じただけど、そんな認識でよかったですか。

田中市長特別秘書：はい委員の今御指摘の通りだというふうに私も考えております。

さわだ晃一(公明・西区)：そしたらね市長に進言したらどうですか。

もうこのリニア認識の間違いもあるけど、リニアの方はまだ続いておりますって、総務環境委員会で市長言ってたけど、今日の今のやり取りだともうリニアが続いてないよね。これまず間違いですよ。

これ大丈夫ですか、この認識で田中さん。

田中市長特別秘書：現段階でのご提案は終わったものというふうに思っております。

さわだ晃一(公明・西区)：それ伝えてください。市長にあなたの総務環境委員会で、リニアは続いておりますけども発言は誤りですと、訂正してほしいぐらいですよ。これはぜひお伝えください。

それで、もう1個ぜひ提案してほしい。もしそういうふうに市長が思うのであればこのMHIの提案も全部破棄して、議案を取り下げて、昇降技術の開発新しいリニアとか尺取虫ができてから、そしてこれ当局さんに聞こうか。今回のMHIの例で結構なんですけれどもこれ名古屋城専用の昇降装置これがどういった手続きを、つまり安全性の確認とか耐久性とか、そういうことを確認してから一般の人に利用できるようになりますよね。この手続きってどれぐらいかかるんですか、また簡単にその中身、どういうところに許可を取ると必要があるのかっていうことは、どれぐらいかかりますか時間。

小鹿主幹：垂直昇降設備 MHI さんの垂直昇降設備につきましては安全性耐久性などをですね担保していくというような考えでございまして、第三者機関の評定を得ていくというふうに考えております。

この評定といたしましては、契約の期間中令和8年度末まででございますが、未頃まででございますが、その期間の間で評定を取得していくというふうに考えております。ただこ

の3年丸々かかるのかももう少し早く取得できるのか今です調整を進めているところでございますので、またはっきり申し上げられる段階ではございません。

さわだ晃一(公明・西区)：このMHIの技術は、船舶とかのね、昇降装置にも使われているということなので既に実用化されている技術ということもあって、それでも令和8年度という見込みが出ている。

この新しいリニアとか尺取虫とか、アイデアの段階である技術もたくさんあると思うので、そういうものが世に出て、市長が目指す理想の名古屋城のね昇降技術が確立されてから、基本計画書に盛り込んで、その夢のような新技術が、先ほどの認証機関の認証を経て不特定多数一般のどなたが使ってもいいような、そうした技術が確立されてから、基本計画書出されたらいかがですかとお伝えいただけませんか市長に。

田中市長特別秘書：今の委員のご指摘ではございますけれども、基本的にはやっぱりこのMHIの技術をです、しっかりどこまでいけるかというのをし検証して行って、計画に盛り込んでいくというのが、私は大前提だと思っております。なかなか市長に申し上げにくいところかなというふうに思っておりますのでただまず、委員もし前段の通りですもうりニアの技術は終わってるんところではございますので、基本はメジャーの技術でしっかりです、まずはどこまでいけるのかという、障害者の皆様のためにどこまでいけるのかというところを、利用者さんも含めてですというところをまず市長には私としては、しっかりお伝えしていきたいところかなというふうに思っております。

さわだ晃一(公明・西区)：田中さんはMHIでいけるっていう局の方針とほとんど同じだと思うんですけど。

あの、でも市長の話を知っていると、だからあえて、先日の総務環境委員会の中でリニアした尺取虫の話、それから昨年末に正式にお断りのあたりニアの技術がさも続いているかのように話をされるっていうことで余計また混乱に拍車をかけているということなんです。

でも市長がこの名古屋城に関わり続けられるのであれば、あくまでも自分の理想の昇降装置の開発を目指されたらいいんですよ、別にそういう提案また議会にいた出し直していただければ結構ですよ。

そんないやいや、しぶしぶ、しょうがないって言って、これで認めておいて、違う場所で例えば記者会見の場所、委員会の場所で、そうした方針と違うかのような印象を与えるのは混乱をさらに深めますよ。

つまり障害者の方々もあのお認めいただけませんよ、もっと言うと前提に立てませんよ話し合いのって。

いうふうに私個人はすごく感じるんですけど、なので、いいじゃないですか別に取り下げていただいて、ね、理想の姿ができるまで、待ちますよあれば、気長にだってそう。

そうした方が、あの勘違いしちゃいけないのは障害者のために昇降装置つけるわけじゃないですよ。

バリアフリーで、その方々のためだけに多くの方が勘違いしてるけど、この木造天守閣の枠組みがね、入場料を取って、それで債権の償還に充てていくという事業スキームである以上、これはどなたが来られても最低限度のバリアフリーを保障しないとイケないんです。

そうした大きな勘違い市長の中での大きな勘違いや混同や、取り違えや言い間違えそれから、かみ合わない議論、思いが強すぎるがゆえにね、総務環境でもそういった発言された委員さんおられましたけど、というふうに思うのでいいですし、市長さんに言ったってくださいつまでも待ちますから。

もうなんならずっとこの新技術、もう理想の最高の技術ができるまで木造なんか再建しなくていいじゃないですか、と私は思います。またこういうのは予算委員会でもたやりましたよかね、

委員長 上村みちよ(自民・東区)：田中市長特別秘書に対する質疑は他によろしいでしょうか。

よろしいですか。では、田中市長特別秘書におかれましてはご退席いただいて結構です。

他に、当局への質疑はございませんか。

他にないようであります。

以上で観光文化交流局関係の質疑を終了し、付議議案に対する全ての質疑を終了いたします。

本日の予定は以上であります。

次回は3月4日月曜日午前10時30分から付議議案に対する意思決定を行います。

これにて本日の委員会を散会いたします。

お疲れ様でございました。